

野道共同墓地

出津教会のすぐ北に位置するこの段状の墓地には、キリスト教と関連づけられる平板型の墓石があります。ここには、1879 年から 35 年間にわたってこの地域の主任司祭を務めたパリ外国宣教会のフランス人司教マルコ・ド・ロ神父（1840–1914）が埋葬されています。

ド・ロ神父は貴族の家に生まれ、自由に使える財産に恵まれていました。彼は、貧しい自分の教区民のために、私財を投じて幼稚園、女性の職業訓練所、パスタ工場、茶畑などを造設しました。人々の状況を改善しようとする神父の熱意は故人にまで及びました。1889 年、ド・ロ神父はこの墓地の建設に着手し、集落の人々は無償で労働力を提供しました。

急勾配の丘の斜面という立地のため、この墓地の完成には丸 10 年を要しました。ド・ロ神父自身は 1914 年にここに埋葬されました。神父のお墓はもともとここより高いところにあったのですが、後によりお参りしやすいよう下に移されました。（ド・ロ神父は今でもこの地域の英雄で、学校の教科書でも取りあげられるほどです。）元は簡素な石塚であったこの場所のお墓の多くは、近年平板型の墓石に取り替えられています。子どもたちが埋葬されている墓地の一番高い部分は、ほとんど手つかずの状態に残っているため、墓地の元の様子が最もよく分かります。